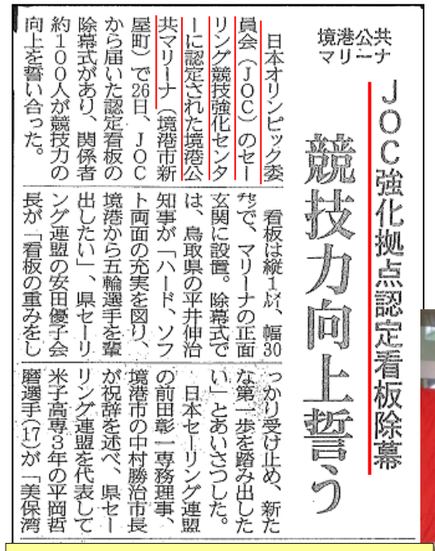
境港公共マリーナの土砂堆積対策について

1　境港公共マリーナの状況

〇弓ヶ浜海岸末端部に位置し、例年漂砂により航路が埋没。
〇航路維持のため、国交省の養浜と連携したサンドリサイクル事業により、年間約6,000m3の浚渫を実施。
〇平成26年2月の関東沖の爆弾低気圧で東よりの強風が続き、航路が埋没、船舶の入出港が困難となった。
〇平成26年3月　日本オリンピック連盟のセーリング強化拠点に認定（リオデジャネイロ五輪まで）。
〇平成26年度予算により、管理棟の施設改善、艇庫の整備等、強化拠点としての機能アップを図っている。



境港公共マリーナ

JOC強化拠点認定看板除幕

競技力向上誓う

日本オリンピック委員会（JOC）のセーリング競技強化センターに認定された境港公共マリーナ（境港市新屋町）で26日、JOCから届いた認定看板の除幕式があり、関係者約100人が競技力の向上を誓い合った。

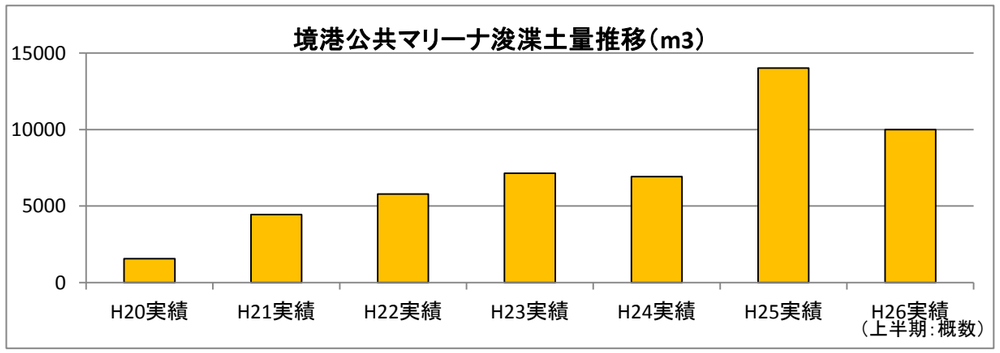
看板は縦1メートル、幅30センチで、マリーナの正面玄関に設置。除幕式では、鳥取県の平井伸治知事が「ハード、ソフト両面の充実を図り、境港から五輪選手を輩出したい」、県セーリング連盟の安田優子会長が「看板の重みをしっかり受け止め、新たな第一歩を踏み出したい」とあいさつした。日本セーリング連盟の前田彰一専務理事、境港市の中村勝治市長が祝辞を述べ、県セーリング連盟を代表して米子高専3年の平岡哲磨選手（17）が「美保湾

平成26年4月27日（日）　日本海新聞

2　浚渫土砂量の推移

〇弓ヶ浜海岸（米子市夜見、富益地内等）が美保湾を北に向かう沿岸漂砂により浸食され、流末（北側末端部）に位置する境港公共マリーナ付近に堆積し、航路・泊地が埋没している。

〇境港公共マリーナの航路・泊地に堆積した土砂について、境港管理組合が浚渫して陸上げし、国土交通省日野川河川事務所が自らの採取土砂と併せてダンプトラックで運搬、浸食が進む米子市富益地内の弓ヶ浜海岸の浜崖部に養浜するサンドリサイクル事業を実施している。

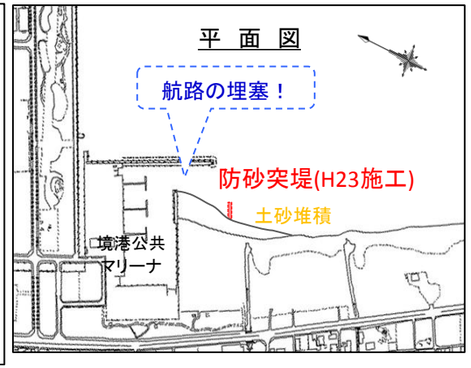


※H25実績はH26.2月の関東沖の爆弾低気圧による航路埋没に伴う緊急浚渫を含む。

3　これまでの対応状況

鳥取大学と連携し、防砂突堤を整備、その後の土砂堆積の経年変化を観測し、効果を検証。

〇防砂突堤整備（平成23年度）
・突堤の形状：汀線を起点に延長22m、天端幅3m※の捨石式防砂突堤
（平成24年3月完成）
〇調査（平成24年度～平成25年度）
・防砂突堤整備の効果検証の基礎データとするための深浅・汀線測量を実施
〇解析検討（平成25年度）
・防砂突堤整備後の深浅・汀線測量の結果を基に突堤改良に向けたシミュレーションを実施

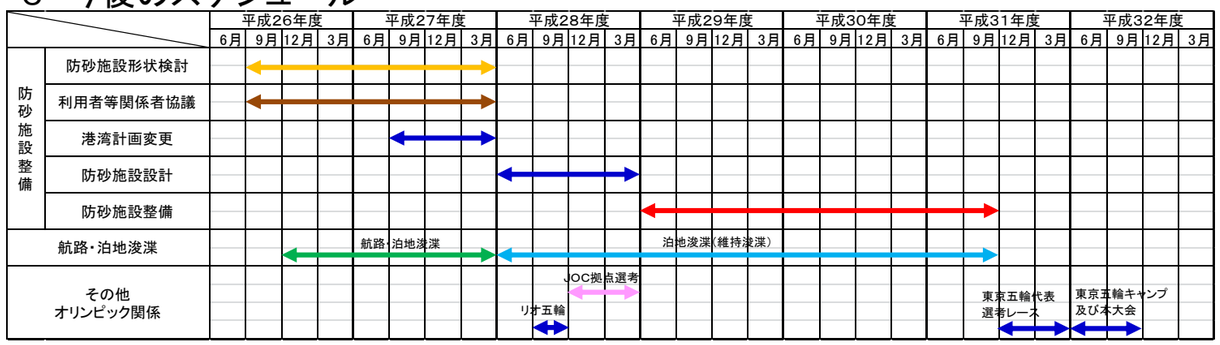


4　防砂突堤の効果検証

〇突堤付近の汀線前進
・突堤周辺の汀線が、突堤完成直後（平成23年4月）と比較して前進しており、突堤に砂が堆積していることを確認
〇浚渫回数の減
・防砂突堤整備前（平成23年度）に対して、防砂突堤整備後（平成24年度）の浚渫回数が減少
（平成23年度：4回　→　平成24年度：3回）
〇防砂突堤の埋没
・整備後1年間経過した現状は、突堤のポケットの容量を超える漂砂によって突堤全体が埋没し、航路の閉塞が継続

5　平成26年度及び平成27年度以降の取組予定

JOCセーリング強化拠点としての機能確保のため、抜本的な航路の埋没対策の検討が必要

〇平成26年度
（1）堆砂ポケットを設けるため航路・泊地を広範囲に浚渫（2年計画）・・・（毎年の維持浚渫は最低限の浚渫）
（2）これまでの検討結果と実績データを整理、抜本的な最適案を検討し、関係者との調整を行った上で対策案を決定する。
・実績データに基づく堆砂量の把握
・沿岸・岸沖漂砂量の推定（海浜変形予測の実施）
・防砂施設の配置検討
・堆砂対策の最適案の選定
〇平成27年度（予定）
（1）航路・泊地の広範囲な浚渫（2年目）
（2）決定した対策案について概略設計を行い、港湾計画を変更する。
・防砂施設概略設計
・港湾計画変更
〇平成28年度以降（予定）
詳細設計及び工事実施

6　今後のスケジュール